

☆☆☆ Library Eye 2020 ☆☆☆

第8号 2020.11.1(日)

発行元 明星中学校・高等学校 図書館



【Go to the world of books!】

図書館に、なかなか戻ってこない本があります。

といっても延滞しているわけではありません。配架以来、予約が途切れず、次から次へと生徒や先生たちの間をバトンリレーされているのです。

その一つが『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』（プレイディみかこ）で、あえて元底辺中学校に進学した優等生の息子が、人種差別、貧富、ジェンダー、など様々な問題をクリアしていくうちに大人へと成長していく姿を描いた渾身のノンフィクションです。

本は《旅》をします。

『深夜特急』で知られる沢木耕太郎は、シルクロードを旅していたとき、中近東の町ですれ違った日本人と本を交換し、山本周五郎の『さぶ』を渡されます。そして、その手垢の付いた文庫本の、第一章の第一節の第一行目を読んでいたとき、「不覚にも涙を流しそうになった」と告白しています（『地図を燃やす』）。

その一節とは「小雨が霏のようにけびる夕方、両国橋を西から東へ、さぶが泣きながら渡っていた」というものでした。

シルクロードでは一冊の本が「何十回となく往ったり来たりして」います。

「旅する本」は角田光代の『さがしもの』に収められている一篇です。

主人公の「私」は、18歳の時に、学生街にある小さな古本屋に売った翻訳小説と、偶然、大学の卒業旅行で訪れたネパールのポカラにある古本屋で再会し、買い戻します。

その後、今度は、カトマンズの路上に店を出している若者に売って旅立つのですが、数年後、アイルランドの学生街にある古本屋で二度目の再会を果たします。「私」はその本を薄暗いパブの片隅で読みながら、これまで手にするたびに本の印象が違っていたが、実は「変わっていたのは本ではなくて、私自身だったのだ」と気づくのでした。

星野道夫の『旅をする木』は、トウヒの木が種子から大木に生長し、さいごは原野の薪ストーブの中で燃え尽きるまでを描いたアラスカの物語です。

この本は、世界中の旅人に愛され、バックパッカーたちの愛読書になっている、と聞きます。

あるとき、誰か一人の旅人が『旅をする木』の題名部分に横棒を入れて「本」とし、「この本に旅をさせてやってください」と記しました。そして、この本は旅人たちの手から手へと渡っていき、ときには孤独を慰める励ましとして、ときにはお守りとして世界中を《旅》することになったのでした。

私は、ずっとこの本の題名を『旅する本』と勘違いしていました。

星野道夫の書く文章には、自然や、そこに暮らす人間や動物たちに向けられた、優しく、温かなまなざしを感じることができます。『イニユニック』や『長い旅の途上』、串田孫一の『山のパンセ』なども、すがすがしい感性に溢れた名品です。

人生は《旅》です。しかも、片道の子チケットしかありません。その一回限りの《旅》が、お子様にとって、かけがえのない幸福なプロセスとなるように、私たち大人は「読む」という行為が、進むべき方向を示す指標となることを伝えていく必要があるのではないのでしょうか。



【紙芝居 やりました♪】

10月13日に、明星幼稚園の園児たちが遊びに来ました。このコロナ禍で遠足が中止になったため、“遠足ごっこ”として、敷地内の探検です。普段足を踏み入れることのない中学校・高等学校の校舎にやってきて、緊張しているのか図書館は静かにするところと教わっているためか、とても静かでお行儀の良いお子さんたちでした。

せっかく頑張って4階まで登ってきてくれるので、図書館で何かゆっくり楽しめるものはないかと考え、普段はあまり出番のない紙芝居を使ってみよう、ということになりました。

演じるのは司書の一人。今まで一度も使われていなかった紙芝居用の演台も初お目見えです。演目は『ちゅうちゅうハッケヨイ』。10分足らずの日本の昔話でしたが、小さなお客さんたちのワクワク、キラキラした瞳にじっと見つめられて、とても幸せなひとときを過ごすことができました。

読書活動の最初の入り口として、読み聞かせや紙芝居などがあります。読み聞かせは、言葉から場面をイメージする“想像力”が、紙芝居や舞台物は登場人物の感情をなぞることで“共感力”が育つといわれています。

中学生や高校生の皆さんに今さら読み聞かせとはいきませんが、ちょっと童心を思い出して、昔話や絵本など、小さい頃に親しんだ本をもう一度手に取ってみてはいかがでしょうか。



【新しい本の貸出者1番乗りになりませんか？】

図書館には、毎月100冊を超える新刊本が入ってきます。それらは隔週の金曜日に、新刊本コーナーに並びます。新型コロナウイルスの感染拡大防止措置として、3月2日から5月31日まで休校となりました。この3カ月の間も、いつ休校が解除になり生徒の皆さんが来館しても良いようにと、多くの本が準備されていました。登校再開は6月1日でしたが、学校の指示により図書館利用再開は6月29日となりました。そのため、新刊本コーナーの本がいっぱいになり、生徒の目にあまり触れることのない本がたくさんありました。

今回、改めて図書館入口の展示スペースに『貸出0(ゼロ)の本』と題して、この間に入ってきた本を展示してみました。早速手に取って、真新しい本の貸出者1番になった生徒がいました。多くの本が貸りられることを期待します。

【10月31日はHALLOWEENでした!】



今年はコロナ禍で多くの行事・イベントが中止や自粛となっています。図書館では、生徒の皆さんに少しでも楽しい気分になって欲しいと、HALLOWEENに関連するかわいい洋書の展示と飾り付けを行いました。

